

特定小電力タイプ



無線操縦装置

クレディコン

－ 取扱説明書 －

クレディコンB : CRS (2) -12F CRB (2) -12E
クレディコンG : CRG (2) -12A CRJ (2) -12
クレディコンGH : CRH (2) -12A CRK (2) -12



警 告

- 取扱説明書本文にでてくる警告事項の部分は、製品を使用する前に注意深く読み理解してください。
- 必ずこの取扱説明書に従って、取付け・運転を行ってください。
- 分解・改造・修理などは絶対にしないでください。

日本ホイスト株式会社

需要家の皆様へ

このたびは当社製品をお買い上げいただきありがとうございます。

お求めの無線操縦装置「クレディコンB・G・GH」を正しく使用していただくため、お使いになる前にこの「取扱説明書」をよくお読みください。

この取扱説明書は、実際に無線操縦装置「クレディコンB・G・GH」をご使用になるお客様に必ずお渡ししてください。

お読みになった後、本書は運転操作される方が必要なときにいつでも読めるように保管してください。

ご不明な点がございましたら、お近くの当社支店、営業所、出張所宛にお問合せください。

正しい設置・使用方法のもとで効果を上げ、貴社の運搬管理の合理化にお役立てください。

今後とも末永く当社製品をご愛用くださるようお願い申し上げます。

目 次

1. 安全について	
1－1 警告用語の種類と意味	1
1－2 取扱全般について	2
1－3 運転資格について	2
1－4 登録について	2
2. お取付前に	
2－1 着荷時の点検	3
2－2 クレーンにご使用の場合について	3
2－3 外観	4
3. 取付方法	
3－1 受信機本体の取付け	5
3－2 配線	5
3－3 配線の確認	6
3－4 同時操作	6
4. 試運転	
4－1 送信機の初期充電について	7
4－2 試運転	7
5. 送信機の取扱いについて	
5－1 電池チェック	7
5－2 充電	8
5－3 取扱い方法	8
6. 故障と対策	
6－1 故障とお考えの前に	9
7. 無線操縦式クレーンの安全心得	10
8. 仕様	11
9. チャンネル表	12

1. 安全について

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止し、安全に正しくご使用いただくために、重要な内容を記載しています。必ずこの取扱説明書を熟読し、正しくご使用ください。
機器の知識、安全の情報、そして注意事項のすべてを習熟してからご使用ください。

1 - 1 警告用語の種類と意味

取扱説明書および機械本体に取付けてある警告ラベルでは危険度の高さ（または事故の大きさ）に従って、次の 3 段階に分類しています。以下の警告用語がもつ意味を理解し、本書の内容（指示）に従ってください。

警告用語	意 味
 危険	切迫した危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重大な傷害を生じるであろう、差し迫った危険状態を示します。
 警告	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重大な傷害を生じることがあり得る、潜在的な危険状態を示します。
 注意	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、中・軽傷を負う場合、機器・機械が損傷する場合、または製品に不具合が生じる場合を示します。

※注意に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。

図記号の説明

表示	意 味
	してはいけない「禁止」を示します。
	必ず実行していただく「強制」を示します。
	危険・警告・注意を示します。

絵表示の例



△記号は、危険・警告・注意を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が記載されています。



⊘記号は、禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容が記載されています。



●記号は、行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。図の中や近傍に具体的な指示内容（左図の場合は必ずアースを接続してください）が記載されています。

1 - 2 取扱全般について

 危 険	
 禁止	● 送信機は技術基準適合証明を受けたものであり、分解・改造・送信機電池収納部内に貼られている技適シールをはがすことは法律により禁止されています。 ● 修理は販売店にご依頼ください。

1 - 3 運転資格について

この無線操縦装置の使用にあたっては、無線従事者免許および無線局開局の申請または届出は必要ありません。電波法施行規則第 6 条で定める「特定小電力無線局」として、技術基準適合証明を取得し、証明ラベルを貼付しています。

●クレーン運転資格（無線、運転室付きの場合）

つり上げ荷重	クレーン運転資格
0.5t以上5t未満	クレーン運転士免許所有者、床上運転技能講習修了者、事業者よりクレーンに関する特別の教育を受けた者
5t以上	クレーン運転士免許所有者

 危 険	
 指示	● つり上げ荷重が0.5t以上5t未満の場合は、クレーン運転士免許、床上運転技能講習または運転特別教育修了の資格が必要です。 ● つり上げ荷重が5t以上の場合は、クレーン運転士免許の取得が必要です。

1 - 4 登録について

 危 険	
 指示	● 同じチャンネル、特に固定チャンネル（チャンネル末尾の番号が6,7,8,9,0以外）のクレディコンB・G・GHが近くに取付けられている場合、不動作の原因となります。これを防止するため、登録制度を設けています。ご面倒でも当社に設置登録をしてください。 ● 移設した際には、新しく取付けた場所をお近くの当社支店、営業所、出張所へご連絡ください。

2. お取付前に

2-1 着荷時の点検

クレディコンB・G・GHは、1台ごと完全調整し厳重な試験検査を行なっていますが、輸送中の事故が皆無とは言えませんので、梱包を解かれましたら直ちに次の事項を点検してください。

- (1) 特定のチャンネルを指定された場合、間違いないかお確かめください。チャンネル表示は次の位置に表示してあります。

送信機：下面

受信機：下面左側（2-3外観参照）

- (2) 機体に損傷はないか。

- (3) 不足品はないか、標準構成品は次のとおりです。

品名	数量	品名	数量
送信機 ^(注1)	1台	防振ゴム ^(注2)	4個
受信機	1台	サージ保護素子	7個
充電器	1台	ソフトケース	1個
アンテナ	1本	取扱説明書	1冊

注1) 予備送信機付きの場合 送信機は2台となります。

注2) ビルドインタイプには添付されません。

2-2 クレーンにご使用の場合について

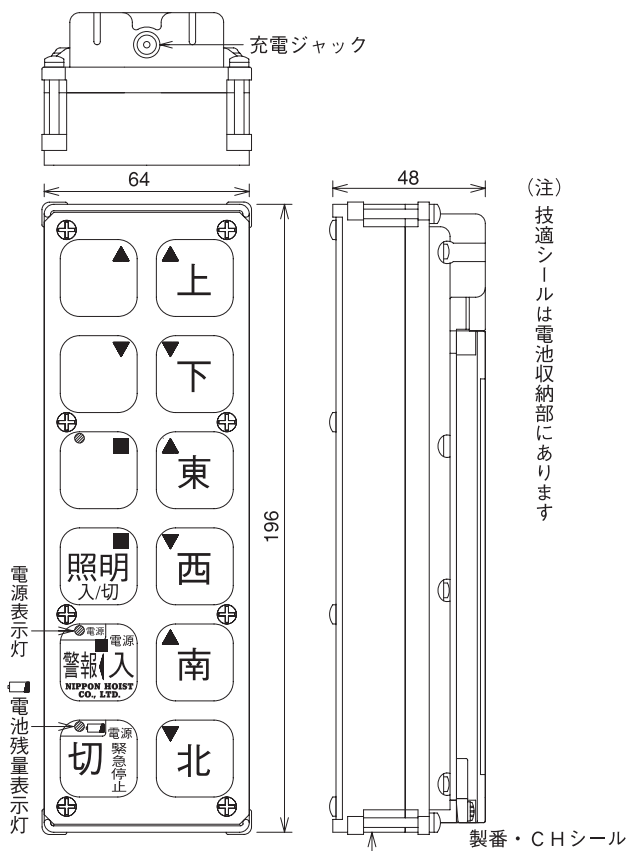
 注 意	
 指示	● クレーン構造規格第18条により、走行クレーンは、走行を制動するためのブレーキが必要です。 ● クレーン構造規格第30条により、電鈴、ブザー等の警報装置が必要です。

無線操縦装置をクレーンの操作に使用される場合には、クレーン構造規格の規定を満足する必要があります。走行にブレーキを設けていないクレーンおよび警報装置を設けていないクレーンに**クレディコンB・G・GH**を取付ける場合には、クレーン構造規格第18条及び第30条の規定により走行にブレーキ及び警報装置を取付けなければなりません。

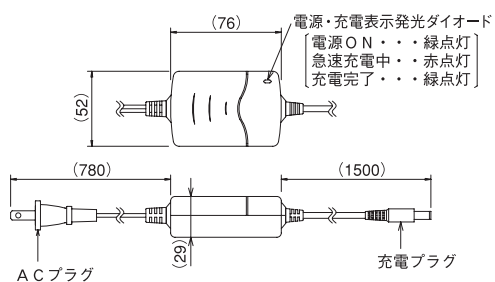
この場合に、つり上げ荷重が3t以上のクレーンのブレーキを変更するときには変更届が必要となります。

2-3 外観

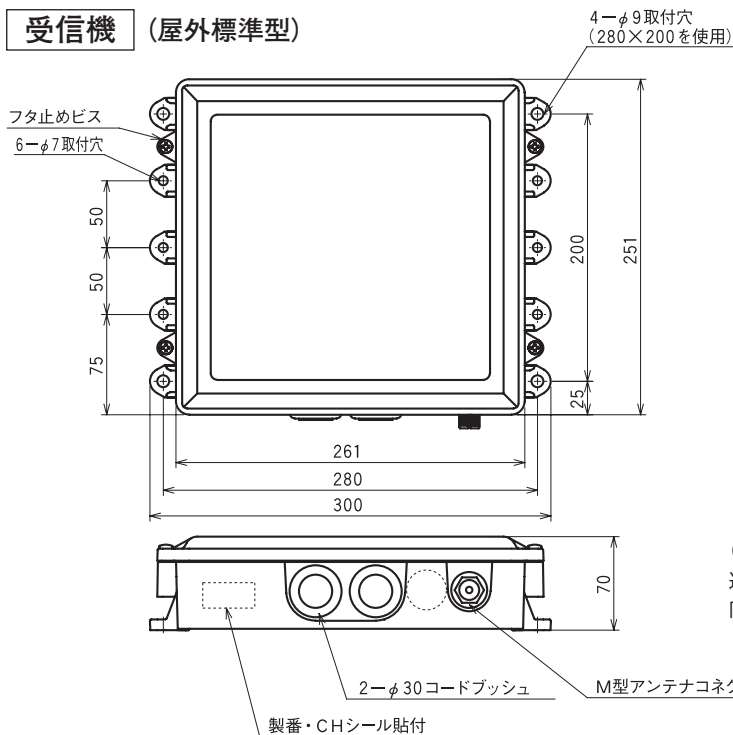
送信機



充電器 PSK-101GA-NH 型



受信機 (屋外標準型)



(注意)
送信機・充電器・受信機の外形図記載尺度は
同一ではありません

3. 取付方法

3-1 受信機本体の取付け

 危 険	
 指示	● 取付工事は専門業者あるいは、専門知識のある人が行なってください。 ● 振動、衝撃に対する保護対策を行なってください。

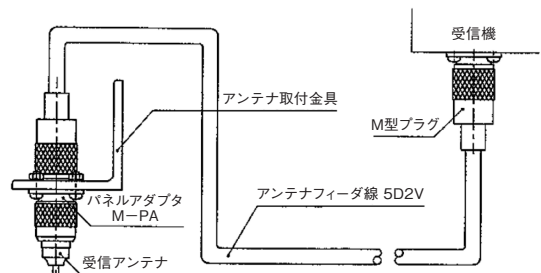
受信機はクレーンガーダあるいはホイスト本体に取付けますが、次の点にご注意ください。

- (1) 裸トリ線あるいは大きな雑音の発生源から出来るだけ遠ざけてください。アンテナは操縦者からみえる位置へ垂直に取付けてください。
- (2) 酸・アルカリ雰囲気、高温箇所への取付けはボックス等の保護対策を行なってください。
- (3) 歪まないよう、平滑な面に取付けてください。
- (4) 付属の防振ゴムを利用し、振動、衝撃に対する対策を必ず行なってください。
- (5) 受信機のアースは必ず設けてください。

(第7図参照)

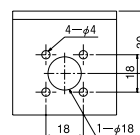
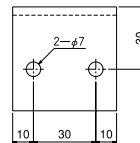
- (6) アンテナを受信機本体へ直接取付けしない場合、アンテナフィダ線は5D2Vを使用し、接続してください。(第5図参照)
- (7) 前記の場合のアンテナ取付金具は、第6図に示しています寸法でご準備願います。なお、アンテナ取付金具は、アンテナフィダ線に5D2Vを使用したものを、オプションとして用意いたしております。

第5図 フィーダ線

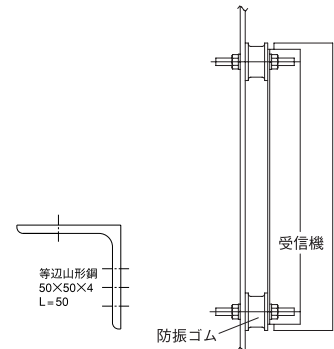


・ アンテナを受信機に直接取付けしない場合

第6図 アンテナ取付金具



第7図 防振ゴム



3-2 配線

 危 険	
 指示	● 電気工事は専門業者あるいは、専門知識のある人が行なってください。専門知識のない人が接続すると火災や感電の原因となります。 ● 受信機を据付けてから配線してください。
 指示	● アース線を確実に接続してください。 ● 受信機はプラスチック製ですので筐体アースが必要です。筐体アースは、電源ノイズ対策部品を有効にするために必要ですので必ず実施してください。また、ケースは導電性プラスチックを使用しています。絶縁体ではありませんので電圧を印加しますと電流が流れます。フタの上で電気作業などは決してしないでください。



注 意



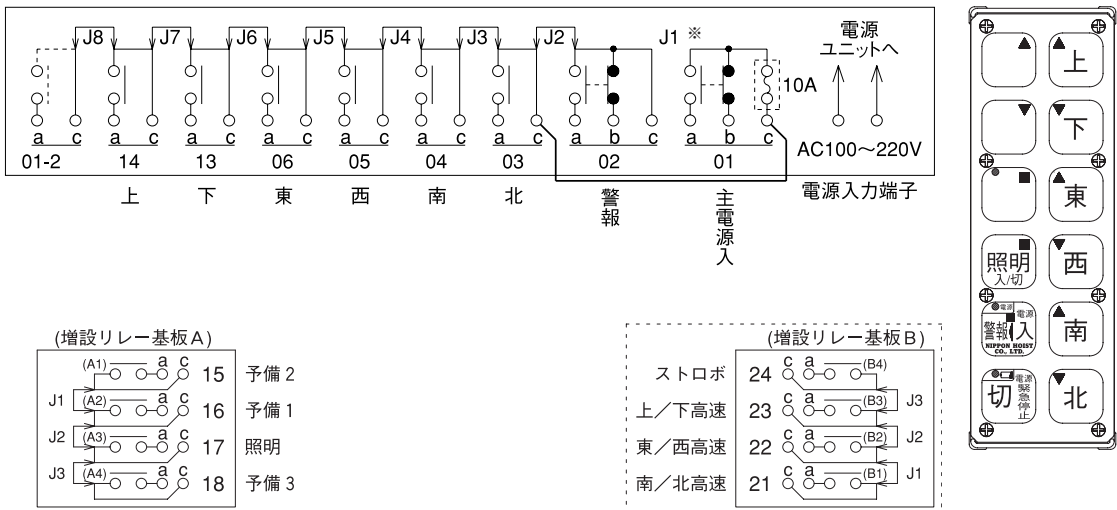
指示

- 制御する電磁接触器及び補助継電器のコイルには、サージ保護素子を必ず取付けてください。
- 制御できる電磁接触器には制約があります。電磁接触器の容量が25kW以上（AC3φ, 200V）の場合は、補助継電器を用いてください。
- ハイインピーダンスの補助継電器をご使用になりますと、漏れ電流により信号が切れても自己保持現象により補助継電器がOFFしないことがあります。必ず対策を行なってください。（対策については、当社にご相談ください。）
- 電源電圧がAC100～220V以外は使用できません。
電源接続位置は同じ端子台です。

(1) 出力回路は第 8 図のとおりです。

※ J1 ジャンパー線はカットされており、01c-03c 間にはワタリ線が配線されています。

第 8 図 出力回路図



増設リレー基板 B は 2 段押し仕様の場合のみ搭載しています

(2) 受信機の出力接点に警報器を直接接続すると、残響音が発生する可能性があります。

このような時には、補助継電器を介して警報器を接続してください。

3-3 配線の確認

配線が終わりましたら間違いがないか再度確認してください。配線に間違いが無かったら受信機に通電してください。基板上の通電 LED が点灯して通電が確認できます。

3-4 同時操作

上下・東西・南北の様に相反する押しボタンスイッチにはインターロックが付いています。



4. 試運転

4-1 送信機の初期充電について

はじめてお使いの時や、長期間ご使用にならなかった時は、ご使用前に必ず充電してからお使いください。

電池パックは消耗品です。十分に充電しても使用時間が短くなった時は電池パックの寿命です。当社純正の新しい電池パックと交換してください。

電池パックは、長期間使用しない場合でも6ヶ月に一度は充電してください。電池パックの使用時間は、使用環境や電池パックの劣化度により異なります。

4-2 試運転

順次、送信機の押ボタンを押して動作の確認をしてください。

クレーンに使用する場合は、最初は必ず「上」の押ボタンを押し、フックが上昇するかどうか確認してください。上昇すれば正しく配線されていますが、もし下降する時は上限のリミットスイッチが動作しません。この場合、操作線の接続ミスか、インバータ仕様でない場合は電源の逆相が考えられます。接続ミスの場合は正しく配線し、逆相の場合はR相とT相（接地相でない2つの相）を入れ替えてください。（インバータ仕様の場合は電源の相を入れかえても改善しません）

5. 送信機の取扱いについて

 注 意	
 禁止	● 送信機は落としたり、衝撃を加えたりしないでください。 ● 送信機は防水型ではありません。水など液体をかけないでください。

5-1 電池チェック

- (1) 送信機の電源を入れ、送信機表面左下側の「」マーク横の電池残量表示灯にて電池電圧をチェックしてください。消灯していれば電池電圧は十分ありますが、赤色に点灯すると電池が消耗していますので充電を行なってください。（5-2 充電 参照してください。）
- (2) 一回の充電での使用可能な時間は、クレディコン B が 10 時間、クレディコン G・GH が 8 時間です。
- (3) 送信機の電源切り忘れによる電池の消耗を防ぐため、電源入の状態です約 10 分間使用しない場合には、送信機の電源が自動的に切れます。再使用するには、「電源入」ボタンをもう一度押してください。

5－2 充電

- (1) 送信機の上面部にあるスイッチ面を前にして上側より充電プラグを差し込んでください。充電が開始されますと充電器上面の電源・充電表示灯が赤色に点灯します。充電が完了しますと充電器の充電確認表示灯が緑色になります。
- (2) 充電時間は、送信機を 10 時間程度使用した場合、約 80 分です。完全放電した場合、電池を満充電するには約 3 時間必要です。

 注 意	
 禁止	● 充電が完了しましたら、充電器のプラグを必ずコンセントから外してください。 ● 充電器は送信機以外の物の充電に使用しないでください。 ※充電不良の恐れがありますので月に一度程度、充電器及び送信機の充電用接点部分の汚れを乾いた布、綿棒などで取除いてください。

- (3) 送信機の電源は専用充電式電池となっています。ご使用になる前には必ず充電されていることを確認してください。送信機の「電源入」ボタンを押し送信機表面左下側の「」マーク横の電池残量表示灯が消灯していれば電池電圧は問題ありません。点灯する場合は電池電圧が不足しています。専用充電器にて充電しご使用ください。

LEDの点灯状態と内容

電源表示灯 [※]	 電池残量表示灯 [※]	状 態
赤色点灯	消 灯	電池電圧良好
赤色点灯	赤色点灯	電池電圧不足
1秒おきに2回 赤色点滅	消 灯	キャリアセンス実行中
1秒おきに3回 赤色点滅	消 灯	空チャンネル無し
1秒おきに4回 赤色点滅	—	自己診断エラー
赤色点滅	—	送信機内部異常

※表示灯の場所は、2－3 外観 送信機のパネル図を参照して下さい

5－3 取扱い方法

- (1) 水をかけないでください。水の侵入に対する保護対策は行なっていますが、完全防水仕様ではありません。湿気の多い場所、または雨などにかからないように、ご注意ください。
- (2) 送信機に強い衝撃を与えないでください。ご使用になる時、ソフトケースに入れ、ストラップを首から掛ける等してご使用下さい。

落としたり、衝撃を加えますと、内部部品が損傷したり、電池パックの漏液、破裂等の原因となります。不意の故障等の為に予備送信機をお持ちいただく事をおすすめ致します。

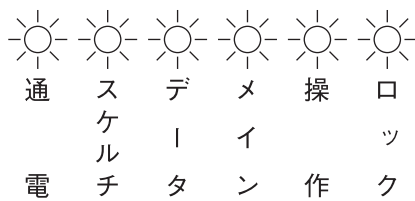
6. 故障と対策

適切な設備と行き届いた保守を行えば一般的に故障を起こすものではありません。取付け条件が悪かったり乱暴な取扱いをしたり、また老朽化してきますと種々の故障や不具合が生じてきます。そのすべてを述べることは困難ですが、基本的な具体例を記しますので参考にしてください。一般的には、現地修理は難しく、また特殊なケースもありますので、最寄りの当社営業所へご連絡願います。

6-1 故障とお考えの前に

無線操縦装置が動作不良となった場合には、次の表に掲げるチェックを行なってください。もし回復しない場合には、お手数ですがお買い求め店、または当社営業所に修理を依頼してください。

作動表示灯の見方について



表示灯名称	表 示 内 容
通 電	受信機に正常な電圧がかかっている場合は点灯（正常点灯）
ス ケ ル チ	キャリア信号受信時点灯
デ ー タ	受信データ 信号受信時点灯
メ イ ン	信号受信時点灯（正常時点灯）
操 作	各操作リレーON時点灯
ロ ッ ク	受信機側で検出停止 解除で消灯

（作動表示灯は受信機プリント基板の左上にあります。）

	〔状 態〕	〔原 因〕	〔対 策〕
送 信 機	(1) 送信機の「電源表示灯」が点灯しない。または送信機の電源をONにすると「  」電池残量表示灯が点灯している	・電池電圧不足 ・電池が寿命	・充電をする ・電池パックを新しい物に交換する
	(2) 充電をしても、「電源表示灯」が点灯しない（充電ができない）	・充電プラグが正しく装着されていない ・充電コードのショートや断線 ・夜間コンセントのブレーカーをOFFしている ・電池寿命（ショートした／1～3年経過） ・送信機の落下等による損傷	・充電プラグを正しく装着する ・ショート、断線を修理する ・ブレーカーを切らない ・電池パックを新しい物に交換する ・弊社営業所もしくは代理店に修理を依頼する
受 信 機	(3) 受信機の通電表示灯が点灯しない	・一次側電圧がかかっていない ・一次側電圧の降下	・正常な電圧にする/接続場所を点検する ・正常な電圧にする
	(4) 受信機の電源01リレーが動かない（スケルチ・データ・メイン・操作の表示灯が点灯しない）	・送信機と受信機のCH・ADDが合っていない ・非常停止が動作している ・ロックランプが点灯している（ニュートラルインターロックの作動）	・送・受信機のCH・ADDを確認する ・電源を切る ・送信機の操作信号ONの原因を確認し回復する
到 達 距 離	(5) 電波の到達距離が短い	・受信アンテナの設置不良 ・アンテナケーブルの断線 ・電源電圧異常（ノイズだらけ等）	・正常なアンテナの設置 ・ケーブル断線箇所を修正する ・正常な電圧にする
	(6) スケルチ・データの表示灯は点灯しているがメイン・操作の表示灯が点灯しない	・同一周波数の電波妨害を受けて混信している	・別の周波数にする事をメーカーに依頼 ・妨害電波を止める
動 作	(7) パネル表示と違う動作をする。またはリレーは作動しているのに動かない	・リレー接続ミス ・制御盤の接続ミス ・端子台とリレーソケット間の溶断	・接続を調べ、パネルと対応させる ・制御盤を点検する ・弊社営業所もしくは代理店に修理を依頼する
	(8) 動かない又は動かなくなった（データ・メイン・操作・ロックの表示灯が点滅）	・CPUが緊急停止している	・代理店もしくは弊社営業所までご連絡下さい。
	(9) 動かない又は動きがおかしい	・受信機内温度が許容値を超えている ・雨ざらし、結露している	・断熱対策をする（-10℃～60℃） ・防水対策等をする

7. 無線操縦式クレーンの安全心得

クレディコンB・G・GHは、多くの安全機能を備えていますが、操作上で誤った取扱いを行ないますと、思わぬ災害を引き起こす原因となります。取扱いにあたっては、次のことを遵守し、安全を心がけてください。

 危 険	
 指示	● クレーンの動作及び周囲の状況がよく確認できる足元の良い位置から操作をしてください。 ● クレーンの動作やつり荷がよく見えない場合には、危険ですから操作をしないでください。 ● 運転者は、操作位置によってクレーンの動作方向を間違えやすいので、操作方向を十分に確認してから操作してください。 ● 運転中に誤動作が発生した場合には、直ちに運転を中止し責任者に連絡してください。再使用にあたっては責任者が原因を調査し異常が無いことを確認した後に行なってください。 ● 予備送信機がある場合は、誤って操作されないよう厳重に管理してください。
 禁止	● 送信機の異常に気づいたら、直ちに運転を中止し販売店に連絡してください。 ● 一人の運転者で、2台以上のクレーンを同時に操作しないでください。 ● クレーンの点検及び修理をする場合には、作業中に他の人が誤って操作しないように送信機を必ず点検者の手元に置いておこなってください。

 注 意	
 指示	● クレーン運転の有資格者が操作をしてください。 ● 無線操縦装置の取扱責任者を決めてください。 ● 運転中は、送信機の操作指令が正しく伝わっているかどうか、またクレーンとつり荷の状態を常に確認してください。 ● 操作が終了したり、一時中断をする場合には、送信機の電源を切ってください。 ● クレーンの運転終了時には、送信機は必ず所定の場所に保管してください。
 禁止	● 送信機を物にあてたり落としたりして、衝撃を与えないでください。万一落下衝撃が加わった場合には、送信機の各機能に異常がないかどうか確認した後で運転をはじめてください。 ● 送信機、受信機には水が入らないように注意してください。 ● 60℃以上の高熱の場所には放置しないでください。

8. 仕様

		クレディコンB	クレディコンB ビルドイン	クレディコンG	クレディコンG ビルドイン	クレディコンGH	クレディコンGH ビルドイン
形式	1段押仕様	CRS-12F	CRB-12E	CRG-12A	CRJ-12	CRH-12A	CRK-12
	2段押仕様	CRS2-12F	CRB2-12E	CRG2-12A	CRJ2-12	CRH2-12A	CRK2-12
送信機	送信周波数	429.2500～429.7375MHz		1216.0375～1216.5000MHz		1252.0375～1252.5000MHz	
	電 源	DC4.8V充電式					
	充 電	専用充電器					
	アンテナ	内蔵					
	変調方式	2値FSK方式					
	環 境	－10℃～60℃、RH95%以下					
	構 造	ハンディータイプ、IP65相当					
	外形寸法 (mm)	64×196×48					
	重 量	0.46kg (付属電池含む)					
	操 作 数	10機能（上、下、東、西、南、北、照明、予備3点）、電源入警報共通、切					
	送信出力	10mW以下					
チャンネル数	40ch			29ch			
受信機	電 源	AC100～220V ±10% 50/60Hz					
	出力接点容量	AC250V 7.5A (cosφ=1)					
	誤操作防止	CRCC-CCITTによるエラー検出方式					
	応答時間	100msec 以下					
	環 境	－10℃～60℃、RH95%以下					
	構 造	屋外標準型 IP65相当*	ビルドイン型 IP00相当	屋外標準型 IP65相当*	ビルドイン型 IP00相当	屋外標準型 IP65相当*	ビルドイン型 IP00相当
	外形寸法 (mm)	261×251×70	348×173×53	261×251×70	348×173×53	261×251×70	348×173×53
	重 量	2.2kg	2.3kg	2.2kg	2.3kg	2.2kg	2.3kg
	出力リレー	G2R-1-S DC12V					
	ヒューズ	250V 10A φ6.4×30 B種溶断型					
	アンテナ	ホイップアンテナ 170			ホイップアンテナ 60		

※防水接線使用時のみ。その他の場合はIP54。

充電器 PSK-101GA-NH型

充電器	AC電圧範囲	AC90～260V 50/60Hz
	定格入力電圧	AC100～240V 50/60Hz
	定格出力電力	4.8W
	定格入力	20W
	出力電圧	DC9.6V (無負荷時) / DC4.8V (負荷時)
	定格二次電流	600mA
	外形寸法 (mm)	76×52×29 (ケーブル・コネクタ含まず)

9. チャンネル表

チャンネル表記は「グループ No」＋「モード No」の組み合わせとなります。

クレディコンB

(MHz)

モードNo グループNo	固定モード					自動モード			
	1	2	3	4	5	6	0	7	9
1	429.2500	429.3500	429.4500	429.5500	429.6500	5ch自動			
2	429.2625	429.3625	429.4625	429.5625	429.6625	5ch自動			
3	429.2750	429.3750	429.4750	429.5750	429.6750	5ch自動			
4	429.2875	429.3875	429.4875	429.5875	429.6875	5ch自動			
5	429.3000	429.4000	429.5000	429.6000	429.7000	5ch自動			
6	429.3125	429.4125	429.5125	429.6125	429.7125	5ch自動			
7	429.3250	429.4250	429.5250	429.6250	429.7250	5ch自動			
8	429.3375	429.4375	429.5375	429.6375	429.7375	5ch自動			
0							40波グループオート	20波グループオート (偶数グループ)	20波グループオート (奇数グループ)

チャンネルの標準出荷時設定は、07または09となります。

クレディコンG

(MHz)

モードNo		固定モード					自動モード			
グループNo		G1	G2	G3	G4	G5	G6	G0	G7	G8
メイン1		1216.0375	1216.1375	1216.2375	1216.3375	1216.4375	5ch自動			
メイン2		1216.0625	1216.1625	1216.2625	1216.3625	1216.4625	5ch自動			
メイン3		1216.0875	1216.1875	1216.2875	1216.3875	1216.4875	5ch自動			
メイン4		1216.1125	1216.2125	1216.3125	1216.4125		4ch自動			
モードNo		J1	J2	J3	J4	J5				
グループNo										
インターリブ1		1216.0500	1216.1000	1216.1500	1216.2000	1216.2500				
モードNo		J6	J7	J8	J9	JA				
グループNo										
インターリブ1		1216.3000	1216.3500	1216.4000	1216.4500	1216.5000				
0								29波グループオート	19波グループオート (メイングループ)	10波グループオート (インターリブグループ)

チャンネルの標準出荷時設定は、0G7となります。

クレディコンGH

(MHz)

モードNo		固定モード					自動モード			
グループNo		H1	H2	H3	H4	H5	H6	H0	H7	H8
メイン1		1252.0375	1252.1375	1252.2375	1252.3375	1252.4375	5ch自動			
メイン2		1252.0625	1252.1625	1252.2625	1252.3625	1252.4625	5ch自動			
メイン3		1252.0875	1252.1875	1252.2875	1252.3875	1252.4875	5ch自動			
メイン4		1252.1125	1252.2125	1252.3125	1252.4125		4ch自動			
モードNo		K1	K2	K3	K4	K5				
グループNo										
インターリブ1		1252.0500	1252.1000	1252.1500	1252.2000	1252.2500				
モードNo		K6	K7	K8	K9	KA				
グループNo										
インターリブ1		1252.3000	1252.3500	1252.4000	1252.4500	1252.5000				
0								29波グループオート	19波グループオート (メイングループ)	10波グループオート (インターリブグループ)

チャンネルの標準出荷時設定は、0H7となります。

クレディコン(B・G・GH) 登録票 記入例

クレディコン(B・G・GH) 登録票

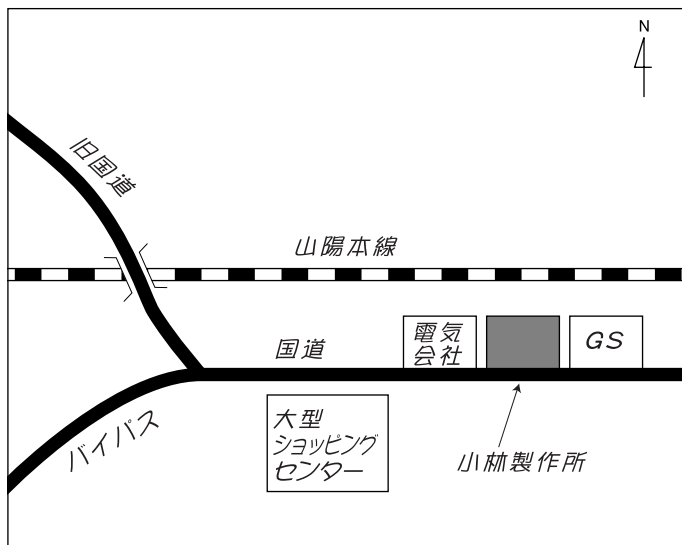
需要家	住所	〒720-0541 広島県福山市津之郷町〇△×-〇	
	社名	(株) 小林製作所	TEL 084(951)〇〇〇〇
	担当	第一工場 責任者 安 全 太 郎	

販売先	住所	〒726-0023 広島県府中市栗柄町〇△-〇×△	
	社名	(株) 内 田 商 会	TEL 0847(45)〇〇〇〇

登録事項

設 置 日	H17年3月3日	クレーン製造年月	H17年3月2日 (新設・既設(NH・他社製))		
製 造 NO.	6000011-0-HI	チャンネル	CH: 07	アドレス	ADD: 020A
工場内で使用	(無)・有 (台)	使用場所	(屋 内)・屋 外 ()		
塵 埃	(少)・多 ()	環 境	(一 般)・そ の 他 ()		
有害蒸気	(無)・有 ()	使用頻度	高・(中)・低 ()		
業 種	金属製品製造業	吊荷種類	鋼材 等		

設置場所・略図



送信機表示

	上
	下
照明 入/切	東 西
警報 入/切	南 北

備考

上下2段押し

写真



該当する装置に印を付けてください。

住所、社名、担当者は、詳しくご記入ください。

クレディコンB・G・GH 取付日

NH: 日本ホイスト製

製造NO.、チャンネルおよびアドレスは、下の写真を参考にしてご記入してください。

一般: -10℃~60℃の範囲
その他: () 内に概略の数字をご記入してください。

備考は当社にて記入します。

クレディコン(B・G・GH)登録票

需 要 家	住所	〒	
	社名	TEL ()	
	担当		

販 売 先	住所	〒	
	社名	TEL ()	

登録事項

設 置 日	年 月 日	クレーン製造年月	年 月 日	新設・既設(NH・他社製)	
製 造 N O .		チャンネル	CH :	ア ド レ ス	ADD :
工場内で使用	無・有 (台)	使用場所	屋 内・屋 外 ()		
塵 埃	少 い ・ 多 い	環 境	一 般・その他 ()		
有 害 蒸 気	無・有 ()	使用頻度	高 ・ 中 ・ 低 ()		
業 種		吊 荷 種 類			

設置場所・略図

N
↑

送信機表示

照明 入/切	
警報◀入	
切 緊急停止	

備考

※左ページ記入例を参考にしてご記入してください。ご記入されましたら、
ミシン目に沿って切取り、代理店もしくは弊社営業所まで、ご返却ください。



——— 運搬システムの合理化を推進する ———

日本ホイスト株式会社

本 社 〒720-0841 広島県福山市津之郷町258-4 TEL(084)951-2211 FAX(084)951-3005

札幌営業所 ☎0133-75-6040

横浜営業所 ☎045-241-1111

姫路営業所 ☎079-282-0441

銭函工場 ☎0133-75-6260

新潟営業所 ☎025-286-8600

福山支店 ☎084-951-2212

東北支店 ☎0223-34-6630

北陸営業所 ☎076-432-5012

広島営業所 ☎082-822-3673

東北工場 ☎0223-34-6695

静岡営業所 ☎054-627-4255

四国営業所 ☎0877-22-9196

宇都宮営業所 ☎028-678-6408

おどろきの工場 ☎054-664-3270

九州支店 ☎0942-81-5566

北関東営業所 ☎0276-80-4250

名古屋支店 ☎052-559-9551

九州工場 ☎0942-81-5578

関東工場 ☎0276-80-4260

中部工場 ☎0568-47-5017

北九州営業所 ☎093-555-9220

大宮営業所 ☎048-664-6124

信州営業所 ☎026-239-7711

国際部 ☎084-951-2800

千葉営業所 ☎043-224-1422

京滋営業所 ☎077-545-3440

東京支店 ☎03-3455-0731

大阪支店 ☎06-6534-1301

資料番号 E 21 (2025年7月)

●お問い合わせ
